

2017年5月29日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 461

高校・大学の教育接続の進化方策

～大学教職員にとっての新学習指導要領／大学入試への反映～

ご参画・ご派遣のお願い

この5月16日、文科省は「高大接続・大学入試改革」の実施案を公表するとともに、6月14日締切でパブコメを実施し、関係団体からの意見聴取の上、6月中には実施方針をまとめる運びです。高校段階では「高校生のための学びの基礎診断（仮称）」、センター試験は「大学入学共通テスト（仮称）」となり、2020年度からの導入のタイムテーブルです。

併せて、同日に「共通テスト」の記述式の「モデル問題例」が（独）大学入試センターから公表されました。マスコミ等でも、各紙の社説や論評で多くのコメントが論展されております。それらの中で、南風原 朝和氏（東京大学高大接続研究開発センター長）の『日本経済新聞』紙上の「記述式・英語委託 熟考を」（5月22日付朝刊）の論考が正鵠を射ていると考えます。

特に、「英語」において、従来のセンター試験を廃止して、「民間の検定試験に全面移行」シナリオには、いささか仰天しました。KKJにおいても、個別大学における学力担保方策として、「民間検定試験」活用について、「英語」の他に、「国語」「数学」「総合」等の事例セミナーを2012年11月以降開催してきました。27年余にわたる英語良問作成の実績あるセンター試験を放擲することの“理”は分かりません。

また、「選抜実施要項の見直しに係る予告（案）」では、「一般入試」を「一般選抜（仮称）」に、「AO入試」を「総合型選抜（仮称）」に、そして「推薦入試」を「学校推薦型選抜（仮称）」にそれぞれ入試区分が変更となります。個別大学入試における「AO入試」→「総合型選抜（仮称）」において、実施時期を9月に「後倒し」することについては、私立大学関係者から「異議」が提起されております。

さて、本セミナーでは、大学入試が前提とすべき新学習指導要領が大学にとってどのような意味を持つのか、そして、“高大接続・大学入試”に係る4人のベスト講師から論展を賜われます。

筑波大学の藤田氏からは、新しい学習指導要領のポイントや方向性、そしてカリキュラムマネジメントを中心に、そこで育成すべき資質・能力とは何か、新指導要領に基づく高等学校における新規科目の設置や学習評価と高大接続の関連について、ご講義を賜われます。

毎日新聞社の中根氏からは、先日公表された新テストに関する問題案、特に英語の民間試験導入、記述式問題等を中心に、現在進行形の高大接続改革に関する最新の動向、今後の議論の行方について、ご報告いただきます。

順天中学・高等学校の長塚氏からは、今次の大学入試制度改革における変更点の確認、学習指導要領改訂への高等学校の対応、そして、高大接続における多面的評価については、米国の事例も交えて、ご講義を賜われます。

大学入試センターの大塚氏からは、27年余の実績を踏まえ、問題作成の方針と作成過程、点検体制、また、学習指導要領に準拠した問題作成の重要性、今後の共通テスト及び個別入試のあり方について、論展いただきます。